

群 教 セ	G05 - 03
	平 29. 265 集
	音楽一小

思いをもって音楽表現を工夫する児童の育成

— 知覚と感受を結び付け、思いを伝え合う活動を通して —

特別研修員 飯山 可奈子

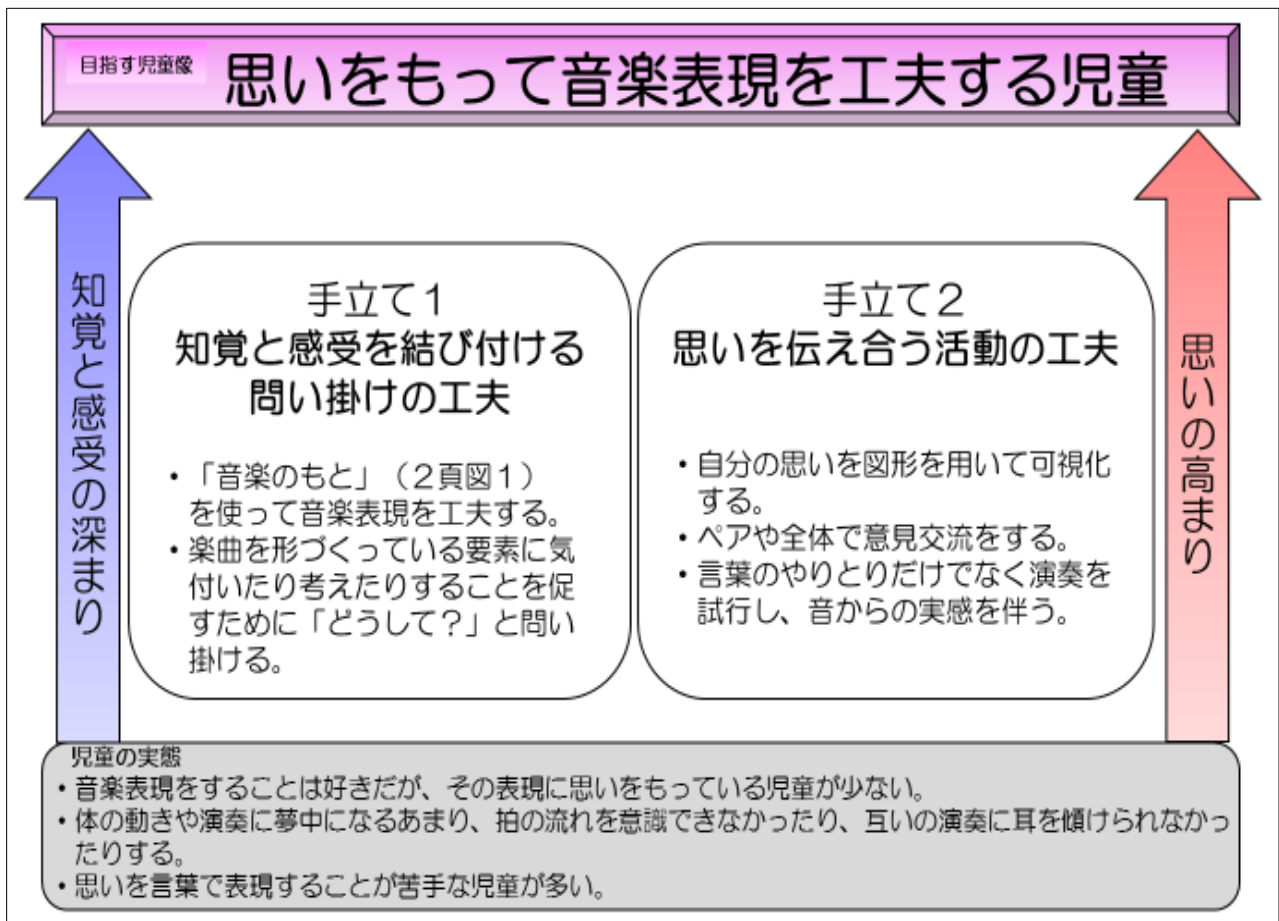
I 研究テーマ設定の理由

平成 29 年度群馬県学校教育の指針では、「イメージや曲想に合う表現方法を試しながら工夫し、表現のよさを実感させる」「音楽を形づくっている要素や楽譜を手掛かりとして、曲の特徴を捉えさせる」ことを指導の重点として掲げている。

所属校の児童の実態としては音楽表現をすることは好きだが、その表現に思いをもっている児童は少ない。それは、漠然とした感受や思いを表現しているためと考えられる。このような児童を、思いをもって音楽表現に生かすことができるようにするためには、まず知覚と感受を結び付ける必要がある。そして、知覚・感受したことを絵や図、言葉で表すなどの可視化が必要であると考ええる。また、思いをもつことができても、それを音楽表現に生かすことができない児童もいる。そこで、活動に応じた既習事項の振り返りを設定することで、言語活動が円滑になったり、音楽表現がしやすくなったりするものと考ええる。その上で友達と意見交流するなど、自他のよさに気付く活動を充実させることで、自分の思いがより確かになり、より良い音楽表現を目指すことができ、表現のよさを実感することで音楽表現を工夫する児童を育成することができると考え、本テーマを設定した。

II 研究内容

1 研究構想図



2 授業改善に向けた手立て

手立て1 知覚と感受を結び付ける問い掛けの工夫

- ・「音楽のもと」（音楽を形づくっている要素）を使って音楽表現を工夫する（図1）。
- ・「音楽のどのような特徴からそう思ったのか」（知覚）「その特徴からどんなことを思ったり感じたりするのか」（感受）ということを教師が問い掛け、それに対する回答を考えるなどの活動を取り入れることで、児童が楽曲を形づくっている要素に気付いたり、考えたりすることを促していく。



図1 音楽のもと

手立て2 思いを伝え合う活動の工夫

- ・言葉を説明するための手掛かりとなるように、自分の思いを図形を用いて可視化する（図2）。
- ・ペアや全体で意見交流をする。
- ・他の児童の思いを言葉で聞いたり音で聴いたりして、自分のよさを再確認したり、他のよさに気付いたりできるようにする。



図2 思いを可視化

III 研究のまとめ

1 成果

- 指導のねらいや手立てを明確にすることで、音楽表現がより良くなっていくことを実感しながら音楽表現をする児童の姿を捉えることができた。
- 知覚と感受を結び付ける問い掛けを続けることで、思いをもって自ら音楽表現を工夫しようとする児童が増えた。教材を鑑賞し「この曲をどのように歌いたいですか？」と問い掛けた時に、「きれいな声で歌いたい」「音の大きさを工夫して歌いたい」「速さに気をつけて歌いたい」「旋律の動きをよく見て歌いたい」など、音楽を形づくっている要素の働きに気づき、音楽的な特徴に即した思いをもつことができるようになった。
- 思いを伝え合う場面では、音楽表現の工夫を可視化したワークシートを基にしたことで、自分との同一点や差異などへの気づきから、意見交流が円滑に行われていた。
- 思いを伝え合う場面で互いの演奏を聴き合う活動を行ったことで、音楽表現を工夫するためには美しい声や音色で演奏したり、リズムに気を付けて演奏したりするなどの技能が必要であることに児童自身が気づき、技能を向上させたいという意欲の高まりが見られた。
- 思いを伝え合う場面では、言葉のやりとりだけでなく音を聴くことによって、強弱が変化する様子を実感することができた。

2 課題

- 思いをもって工夫することと、技能を向上させることは同時に進めていく必要があると感じた。そのため、段階的に技能の向上を図る必要がある。各分野や題材で思いを実現するためにどのような技能の指導が必要かを更に明確にし、より良い表現を実感できるように授業改善を目指す。
- 知覚と感受を結び付ける問い掛けをする場面で個別に対応する際には、実態に応じて机間指導を行う必要がある。
- 多様な考え方が見られる中、それらを受容する一方で、楽曲にふさわしい楽譜通りの強弱を価値付けることも大切である。2年生の教科書の楽譜には強弱記号が示されていないため、今回は教師が例示し、全員で演奏して共有するという方法をとったが、様々な方法を検討していく必要がある。

実践例

1 題材名 「ようすをおもいうかべよう」（第2学年・2学期）

教材名 「人形のゆめと目ざめ」「海とおひさま」「夕やけこやけ」「小ぎつね」

2 本題材について

学習指導要領 A 表現（1）歌唱

- ア 範唱を聴いて歌ったり、階名で模唱したり暗唱したりすること。
- イ 歌詞の表す情景や気持ちを想像したり、楽曲の気分を感じ取ったりし、思いをもって歌うこと。
- ウ 自分の歌声及び発音に気を付けて歌うこと。
- エ 互いの歌声や伴奏を聴いて、歌を合わせて歌うこと。

A 表現（2）器楽

- ア 範奏を聴いたり、リズム譜などを見たりして演奏すること。

B 鑑賞

- ア 楽曲の気分を感じ取って聴くこと。
- イ 音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取って聴くこと。
- ウ 楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲や演奏の楽しさに気付くこと。

<本題材で扱う主な音楽を形づくっている要素>

音色・旋律・強弱

本題材は、音楽を想像豊かに聴いたり、思いをもって表情豊かに表現したりすることに焦点を当てて学習を進める。これまでは、音楽を表現する上で必要な拍の流れやリズムなどに対する技能を中心に学習してきたが、本題材では既習事項を生かし、歌詞の表す情景や気持ちを想像しながら楽曲の気分や言葉の感じを生かした表現を工夫して歌うとともに、声の出し方に気を付けて歌えるようにしたい。

以上のことから、本題材では以下のような指導計画を構想し実践した。

目標	<ul style="list-style-type: none"> ・楽曲の気分を感じ取りながら、想像豊かに聴いたり思いをもって表現したりすることができる。 ・歌詞の表す様子や気持ちを想像して、歌い方を工夫して歌うことができる。 	
評価 規 準	関心・意欲・ 態度	<ul style="list-style-type: none"> ・楽曲全体にわたる気分を感じ取って聴く学習に進んで取り組もうとしている。 ・歌詞の内容から情景や気持ちを想像し、思いをもって歌う学習に進んで取り組もうとしている。
	音楽表現の 創意工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・旋律を聴き取り、その働きが生み出すよさを感じ取りながら、歌詞の表す情景や気持ちを想像して、声の出し方、速度や強弱を工夫し、どのように歌うかについて思いをもっている。
	音楽表現の 技能	<ul style="list-style-type: none"> ・歌詞の表す情景や気持ちを想像しながら、声の出し方に気を付けて、楽曲の気分にあった表現で歌っている。 ・歌詞の表す様子や気持ちを想像しながら楽曲の気分にあった速度や強弱で旋律を演奏している。
	鑑賞の 能力	<ul style="list-style-type: none"> ・速度や強弱などに気を付けて聴き、様子を思い浮かべたり楽曲の気分を感じ取ったりしたことを言葉で表すなどして、楽曲全体にわたる気分を楽しんで聴いている。
過程	時間	主な学習活動
課題 把握	第1時	<ul style="list-style-type: none"> ・「人形のゆめと目ざめ」を聴き、曲の感じをつかむ。 ・教科書の挿絵を基に、場面の変化に気付いて聴く。
課題 追 求	第2時	<ul style="list-style-type: none"> ・楽曲の気分の変化を感じ取って聴く。 ・感じたことを発表し合う。 ・音楽を聴いて確認し、共有する。
	第3時 ～ 第8時	<ul style="list-style-type: none"> ・「海とおひさま」「夕やけこやけ」「小ぎつね」を聴き、曲の感じをつかみ言葉で表す。 ・それぞれの曲を声の出し方に気を付けて歌詞唱する。 ・それぞれの場面の様子の変化に合った速度や強弱を工夫する。 ・工夫した思いを伝え合い、クラスの歌い方を練り合う。
	第9時	<ul style="list-style-type: none"> ・「小ぎつね」の旋律を階名唱する。 ・運指を確認して、鍵盤楽器の練習をする。
ま と め	第10時	<ul style="list-style-type: none"> ・工夫したことを生かして友達と声や音を合わせて歌ったり演奏したりする。

3 本時及び具体化した手立てについて

手立て1 知覚と感受を結び付ける問い掛けの工夫

- ・既習事項から「音楽のもと」を手掛かりに音楽表現を工夫する。
- ・なぜそのような表現にしようと思ったのか問うことで、楽曲を形づくっている要素に気付いたり、考えたりすることを促していく。
- ・様々なパターンの伴奏をし、曲の雰囲気合う伴奏はどれか、なぜそう思うのかを問う。

手立て2 思いを伝え合う活動の工夫

- ・言葉で説明をするための手掛かりとなるように、自分の思いを図形を用いて可視化する。
- ・思いを伝え合う助けとなるように、情景を色で表す。
- ・表現の仕方を円滑に練り上げていくために、ペアで意見交流をする。
- ・全体で共有する時間をとり、音からの実感を伴えるようにする。

4 授業の実際

【ねらい】歌詞の表す情景を想像したり、旋律を手掛かりにしたりしながら強弱を工夫し、どのように歌うかについて自分の思いをもつことができる。

【手立て1 既習事項から「音楽のもと」を手掛かりに音楽表現を工夫する】

既習事項（旋律が上がると音は大きくなる、旋律が下がると音は小さくなる、歌詞が明るい感じや楽しい感じがする時は音を大きくする、歌詞がさみしい感じや悲しい感じがする時は音を小さくする）を確認し、児童が前時に設定しためあてから、教師とのやりとりをする中で、音楽表現を工夫するために要素を「強弱」に絞った。

既習事項を基に、「音楽のもと」を活用してめあてを設定する場面

前時に児童が設定した「夕やけこやけ」のめあて

- ・きれいな声で歌う
- ・思いをもって歌う（大きさ・速さ）
- ・様子を思い浮かべて歌う

T : 思いをもって歌うためにはどんなことに気を付けますか？

S 1 : 「海とおひさま」の時のように強弱を工夫すればいいと思う。

S 2 : 強弱を工夫するには旋律の高さに気を付ければいい。

S 3 : 歌詞の様子を考えてもいいんだよ。

T : こんな勉強をしましたね（図3）。
では本日のめあてはどうしますか？

S 4 : 「夕やけこやけ」の音の大きさを工夫しよう

S 5 : 「夕やけこやけ」に合う大きさを工夫しよう

T : では合体して『「夕やけこやけ」に合う音の大きさを工夫しよう』にしましょう。

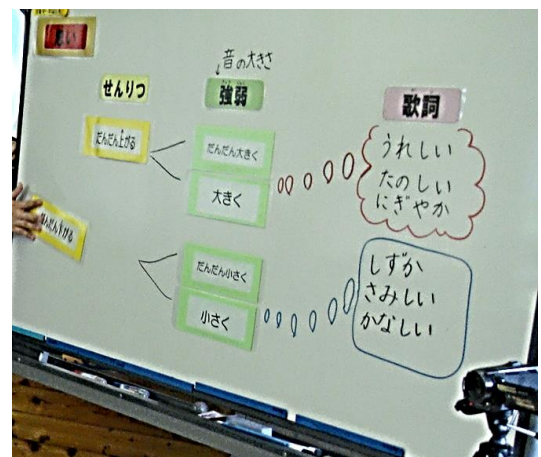


図3 既習事項を振り返る

【手立て1 なぜそのような表現にしようと思ったのか問うことで、楽曲を形づくっている要素に気付いたり、考えたりすることを促していく】

強弱をワークシートに図形を用いてその大小で表すことで可視化させた。ワークシートに描かれた表現に対し、なぜそのような表現にしようと思ったのかを個別に問うことで、知覚と感受を結び付けた。また、表現したことを教師が価値付けるようにした。

個別に音楽表現を工夫する場面（図4）

T : どうしてこの大きさにしたの？
 S1 : 旋律が上がっているから。
 T : 一番も二番もここは旋律が上がっているのに、二番は小さくしているよね？どうして？
 S1 : 二番は夜だし、みんな寝ちゃったと思うから、みんな寝ちゃった～っていう風にしたかったから。
 T : 確かに小さくすると寝ちゃった感じがするね。（価値付け）じゃああなたは旋律と歌詞と両方大切に工夫したんだね。
 T : どうしてこの大きさにしたの？
 S2 : 「かねがなる」って書いてあるから、鐘がゴ～ンって大きく鳴っていると思って大きくしたの。二番は「おつきさま」って書いてあるから、静かな夜の感じで、一番より小さくしたの。
 T : なるほど、一番と二番では時間も空の色も違うものね。音の大きさも工夫しないとだね。（価値付け）

どうしてこの大きさにしたの？



図4 個別に音楽表現を工夫する場面

【手立て2 表現の仕方を円滑に練り上げていくために、ペアで意見交流をする】

まずペアで自分の思いを伝え合う。言葉のやりとりだけにならないようにするために、互いに聴き合う場面を設定した。次に全体で数名の児童の思いを全体で共有し、まねをして表現したり、歌う活動と聴く活動を半数に分け、互いに聴き合ったりする場面を設定した。

ペアで思いを伝え合い、試行する場面（図5）

S1 : S2とここは同じだね。何でこうしたの？
 S2 : 「みな帰ろ」って書いてあるから、誘う感じで大きくしたんだよ。S1は何でこうしたの？
 S1 : 私は旋律が上がっているから大きくしたんだよ。強弱は同じなのに、理由は違うんだね。
 （♪二人で歌ってみる♪）
 S3 : S4の歌本当にみんな寝ちゃった～っていう感じがしたよ。面白いね。まねしていい？
 S4 : いいよ。（♪二人で歌ってみる♪）



図5 ペアで思いを伝え合い、試行する場面

5 考察

今回の実践では、工夫する要素を強弱に着目して表現する活動を行った。「旋律が上がると音は大きくなる」「旋律が下がると音は小さくなる」「歌詞が明るい感じや楽しい感じがする時は音は大きくする」「歌詞がさみしい感じや悲しい感じがする時は音を小さくする」という既習事項を全員で確認したことで、児童が見通しを持って強弱を工夫することができた。

また、知覚と感受を結び付ける問い掛けを行うことで、一人一人の思いを見取ることができた。全員が思いを言葉で書き表すことが難しいという2年生の実態では、今回の図形による思いの可視化という方法は有効であった。

多様な考え方が見られる中、それらを受容する一方で、楽曲にふさわしい楽譜通りの強弱を価値付けることも大切である。2年生の教科書の楽譜には強弱記号が示されていないため、今回は教師が例示し、全員で演奏して共有するという方法をとった。

本時は楽曲の強弱の工夫をめあてとしていたが、試行する段階で楽曲の速さに着目している児童も見られた。本研究の内容をこれからも継続し、そのような児童の音楽に対する気付きや思いを育てていきたい。